

## 命を救う方法と勇気を

救急の日の9日と11日、消防署で普通救命講習会が行われ14名が受講しました。

消防署安平支署での講習会では、人体模型を用いて心肺蘇生の方法や自動体外式除細動器（AED）の取り扱い方など、万が一の場面に遭遇したときの対応について学習。

講師を務めた救急救命士の若松淳司令補は、受講者への期待を込めて「この講習が命を救うきっかけや勇気となれば嬉しい」と話していました。



## 地域で災害に備える

11日、安平第1自治会（佐々木弘会長）による、自主防災訓練が行われました。

訓練では災害を想定した避難やテント建ての実習、発電機など備品の取り扱い方法などを確認した後、安平公民館内で、HUG（避難所運営ゲーム）を実施。

避難を行う際に取るべき行動などについての意見交換や非常食の試食会が行われ、防災への意識の向上を図りました。



## 事故をなくすために

今年4月に安平駅近くで人身事故が発生。

この事故を受け安平第3自治会（山口政則会長）では、地域の安全について検討し啓発看板を制作。13日、JR安平駅敷地内に線路付近への立ち入り禁止を呼びかける看板を設置しました。

設置に際し、山口会長は「この看板で事故を防ぐことが出来たら」と地域の安全を願う思いを語っていました。



## 長寿をお祝い

安平町内では今年度中に100歳を迎えられる方は8名。その8名の皆さんへ、内閣総理大臣から祝状と銀杯が贈られました。

16日、瀧町長がグループホームさかえを訪れ、今年4月に100歳となった黒崎鈴江さんに「これからも元気に過ごしてください」と言葉を添えて祝状と銀杯を贈呈。受け取った黒崎さんの表情はとても明るい笑顔をされていました。



## ノーザンホースパークに響いた歓声

町や報道機関、ノーザンホースパーク、北海道コンサドーレ札幌などたくさんの方のもと、24、25日に開催された第3回ノーザンホースパークサッカー大会。会場となったのは、だしの広場とノーザンホースパークに町内外から48チームが集結しました。

初日の懇親会でおいしい食事を堪能したフェリーレFCの選手たちですが、健闘もむなしく上位入賞はお預けとなつたようです。

